

トーキョーアーツアンドスペースレジデンス 2025 成果発表展  
TOKAS Creator-in-Residence 2025 Exhibition

## リンガ・フランカ | Lingua Franca

— 世界の街を舞台に滞在制作を行った、6ヶ国 14名のアーティストたちによる成果発表展

トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) では、2006年よりレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス」を開始し、東京や海外の派遣先を舞台に、さまざまな分野で活動するアーティストたちへ活動の機会を提供しています。共通言語を意味する「リンガ・フランカ」をタイトルとした本展では、2024年度に海外各地の提携機関や東京の TOKAS レジデンスで滞在制作した 14名のアーティストがその成果を発表します。

### 展覧会概要

展覧会名：リンガ・フランカ [トーキョーアーツアンドスペースレジデンス 2025 成果発表展]

出展作家：第1期 | ポリャナ・ヴェンチスラヴォヴァ、木村桃子、カルメン・パパリア、久松知子、森あらた、山田悠、リスクィー・ラズアルディ  
第2期 | AKONITO、綾野文麿、金サジ、小宮知久、陳哲(チェン・ズ)、露木春那、クリストファー=ジョシュア・ベントン

会期：第1期 | 2025年5月17日(土)～6月22日(日)  
第2期 | 2025年7月5日(土)～8月10日(日)

会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷 (東京都文京区本郷 2-4-16)

開館時間：11:00 - 19:00 (最終入場は30分前まで)

休館日：月曜日(7月21日は開館)、7月22日(火)

入場料：無料

主催：トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

提携都市/機関：

ウィールズ/ベルギー・フランダース政府 (ベルギー、ブリュッセル)、HIAP [ヘルシンキ・インターナショナル・アーティスト・プログラム] / フィンランド文化財団 (フィンランド、ヘルシンキ)、18th Street Arts Center (アメリカ、ロサンゼルス)、センター・クラーク/ケベック・アーツカウンシル (カナダ、ケベック州 [モントリオール])、SeMA ナンジ・レジデンス (韓国、ソウル)、トレジャーヒル・アーティスト・ヴィレッジ/アーティスト・イン・レジデンス台北 (台湾、台北)

ウェブサイト：<https://www.tokyoartsandspace.jp/>

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当：舟橋、市川、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154 (2025年4月1日より 03-5245-1140) E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

## 本展について

本展では2期にわたって、東京や世界各国のレジデンスに滞在した総勢14名の国内外のアーティストたちがその成果を発表します。第1期では「分断を越えて」というテーマを共有してTOKASレジデンスで滞在制作を行ったアーティストを含む7名が、第2期では2024年度に提携機関に派遣、あるいはTOKASへ招聘された作家たちが、同じ空間を共有し行うグループ展です。

人類は、地球上の異なる地域で、それぞれの自然と共存・適応しながら、社会生活を営み、固有の文化や習慣、言語を発達させてきました。そして、気候の変化や資源の確保といったさまざまな理由により、集団は別の土地へ移動し、そこで自分たちとは異なる背景をもつ別の社会集団と出会います。その中で、互いの集団が用いることば同士が接触し、互いに影響しあい、単純な意思疎通を可能にする言語が生まれました。さらにそれが土地への定着や融合を繰り返すことで、新たな共通言語リング・フランカとして発展します。

本展に参加する14名のアーティストたちも、各地のレジデンス滞在中に、異なる文化的背景をもつ人々と交流を深め、彼らが抱く問題意識や興味を追いながらリサーチを進め、その経験を凝縮させてきました。そして、それらは作品のかたちとなって空間に立ち現れ、他者に何かを伝える媒体となります。示唆に富んだ彼らの視線や現実への挑み方は、同時代を生きる私たち観るものが蓄積してきた知識や想像力と有機的につなぎ合わせ、さまざまな反応や解釈に辿り着いていきます。

異なる母語話者同士が、どうにか意思疎通を図るために生まれ、発展したリング・フランカのように、本展を通じてまだ知らなかった世界、自分では意識してこなかった事柄に触れることで、自分を取り巻く背景や因習、固定観念などから解放され、互いを理解するための新しいことばを得られるのかもしれませんが。

## 関連イベント

### アーティスト・トーク（予定）

※日程および参加アーティストは変更となる場合があります。

※5月18・24日、7月6日の回には日英逐次通訳を予定しています。

※手話通訳をご希望の方は事前にお申し込みください。詳細は後日TOKASウェブサイトにてご案内いたします。

#### 【第1期】 5月18日（日）16:00-17:30

出演：ボリャナ・ヴェンチスラヴォヴァ、久松知子、森あらた

5月24日（土）14:00-15:30

出演：木村桃子、山田 悠、リスキー・ラズアルディ

#### 【第2期】 7月6日（日）16:00-17:30

出演：陳哲（チェン・ズ）、露木春那、クリストファー＝ジョシュア・ベントン

7月12日（土）16:00-17:30

出演：AKONITO、綾野文麿、金 サジ、小宮知久

## 参加アーティスト / 広報用画像

第1期：2025年5月17日(土)～6月22日(日)

テーマ・プロジェクト「分断を越えて | Beyond Divisions」



1. 《7 Butterflies and We Will Dance. And It Will Be Our Revolution.》  
映像  
2024～

**ボリャナ・ヴェンチスラヴォヴァ****Borjana VENTZISLAVOVA**

海外クリエイター招聘プログラム（2024年5月～7月滞在）

社会地理的、文化的、心理的な境界の移動と越境のプロセス、そしてコミュニケーションと翻訳の複雑さにどう対処するかに関心をもつヴェンチスラヴォヴァは、作品制作を通じて、ドキュメンタリーとフィクションの境界を曖昧にし、わたしたちの現状に疑問を投げかけます。本展では、日本の迷信文化を起点に家父長制とジェンダー不平等、さらに日本の伝統的な儀式の実践に焦点を当て、スピリチュアリティと政治的实践の交差を取り上げる作品を発表します。

【プロフィール】ソフィア（ブルガリア）生まれ。ウィーンを拠点に活動。2005年ウィーン応用美術大学修了（視覚メディア/デジタルアート）。主な展覧会に「Water walk with us」（Toplocentrala、ソフィア、2024）、「In conversation with the Water」（Depoo Gallery、ソフィア、2024）など。



2. 《Mobility Device》  
パフォーマンス  
2015～

**カルメン・パパリア | Carmen PAPALIA**

海外クリエイター招聘プログラム（2024年5月～7月滞在）

パパリアは非視覚的な社会的実践に取り組むアーティストで、アクセシビリティを創造的実践の場としています。彼の作品は協働パフォーマンスから公共介入に渡りさまざまな形をとり、実践をとおして、主流文化に広まっている障害に対する根深い思い込みを覆すことを目指しています。滞在中に、カナダのノイズ・アーティスト Sam McKinley 氏と協働し《Loud Cane 1.0》を開発、物の表面の質感を音に変換し奏でるパフォーマンス用のサウンド・ケーン（楽器となる白杖）を制作し、本展で展開します。

【プロフィール】1981年カナダ生まれ。バンクーバーを拠点に活動。2012年ポートランド州立大学修了（芸術・社会实践）。主な展覧会に「Interdependencies」（ミグロス現代美術館、チューリッヒ、2024）など。



3. 《ダンシングサラリーマン》  
2024～

**久松知子 | HISAMATSU Tomoko**

国内クリエイター制作交流プログラム（2024年5月～7月滞在）

さまざまな土地を移動しながら、アートの権力、制度、経済そして歴史を関心の対象とし、その地域的な差異あるいは共通言語の存在を探るべく、具象絵画とドローイングを中心に制作しています。滞在中には戦後日本の表象を捉えるべくリサーチを行い、その中で鑑賞した一本の映画にインスピレーションを受けました。作中で描かれている高度経済成長期の日本の明るく勢いのある様と、現在我々を取り巻く社会的に陰鬱なムードのギャップを、「サラリーマン」という表象を通じ、久松の持ち味でもある物語絵画として、可愛らしくもアイロニカルに表現します。

【プロフィール】1991年三重県生まれ。埼玉県を拠点に活動。2017年東北芸術工科大学日本画領域修了。2019年同大学院博士課程中途退学。主な展覧会に「カンヴァスの同伴者たち 高橋龍太郎コレクション」（山形美術館、2024）など。



4.《無題》  
映像  
2024

## 森あらた | MORI Arata

国内クリエイター制作交流プログラム (2024年5月～7月滞在)

身体と映像の融合、現実と虚構の境界線といった、アンビバレントな表象をテーマに映像を制作する森は、自身と同じロスジェネレーション世代のもうひとりの「私」を探す物語を下地とする映像制作に着手。引きこもり経験者や心の悩みを抱える人など多数の人にインタビューを行いました。本展では、「私」と同世代の「他者」との対話・対峙を展示空間で再現、伝わらなさ、孤独、分断といった普遍的なテーマを、半透明な心象風景として提示します。

【プロフィール】1983年秋田県生まれ。神奈川県を拠点に活動。2012年ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズカレッジファイン・アート学科卒業。主な映画作品に『蒸発』(2024)、『ア・ミリオン』(2021)など。



5.《Glowing stump》  
木、光ファイバー、映像  
2024  
Photo: Alexis Bernard

## 木村桃子 | KIMURA Momoko

二都市間交流事業プログラム<ケベック>  
(2024年4月～7月滞在)

木村は物質の厚みと時間の奥行きをテーマに、木材とその年輪を用いて光や時間など目に見えないものを可視化することを試みています。2023年にカナダのケベック州で発生した大規模な森林火災に強く関心をもちながらレジデンスを訪れ、森林火災が単なる災害ではなく、生命の循環に必要な自然のプロセスであることを深く理解するに至りました。レジデンス滞在直前に起きたアイスストームによる甚大な被害を目の当たりにした彼女は、その際に倒木した木材を収集し、自然災害と循環に焦点を当てた作品を制作します。

【プロフィール】1993年東京都生まれ。東京都を拠点に活動。2019年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了。主な展覧会に「あたらしい場所」(アートギャラリーミヤウチ、広島、2023)など。

助成：公益財団法人 松浦芸術文化財団



6.《Sun of the City (Tartu)》  
2019  
Photo by Roser Cussó

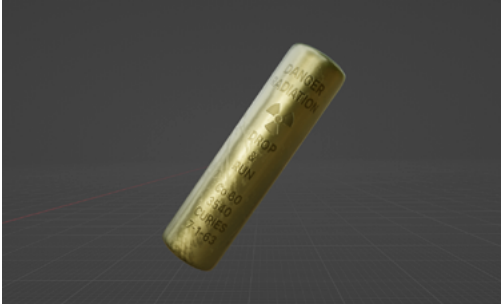
## 山田 悠 | YAMADA Haruka

二都市間交流事業プログラム<ロサンゼルス>  
(2024年4月～6月滞在)

変動する都市環境の中で、自らの行為をどのように作品として成立させることが出来るかに関心を持つ山田は、都市/自然/人間という要素を相対的に捉え、ものごとの関係を測り直そうとしています。彼女の制作活動の多くは実際の都市空間の中で行われ、外的要因からの影響を作品に引き受けさせようと試みます。レジデンス滞在中には、私たちが無意識に正しいと認識している「時間」や「時刻のルール」、そこに内在される権力について考察を続け、その成果として壁面作品や再構成したインスタレーション作品を展開します。

【プロフィール】1986年神奈川県生まれ。東京都を拠点に活動。2014年ディジョン国立高等美術学校 DNSEP アート課程修了。主な展覧会に「日時計の面影」(POETIC SCAPE、東京、2023)など。





7. 《Not Masterless Object》

CGI と HD ビデオ / マルチチャンネルビデオと空間インスタレーション  
2024

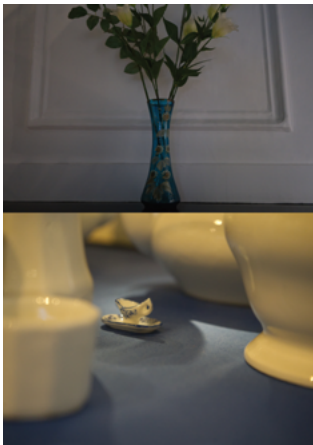
## リスキー・ラズアルディ | Rizki LAZUARDI

### 海外クリエイター招聘プログラム（2024年9月～11月滞在）

ラズアルディは作品制作において、オーディオ・ヴィジュアル映像に内蔵される制度的な効果を活用しています。今回のレジデンス滞在中には、茨城県にかつて存在した放射線育種場「ガンマーフィールド」を思考の出発点とし、農業や原子力の専門家・研究者たちへのインタビューを通じて、フルーツの品種改良について調査を行いました。流通の背景にある意外な事実や信じられてきたフィクションを一種の物語として抽出しながら、本展では高級フルーツの競売に光を当て、改良された果物がもつ社会経済的影響を表現することを試みます。

【プロフィール】1982年スマラン（インドネシア）生まれ。バンドン（インドネシア）を拠点に活動。2020年ハンブルク美術大学修了（ヴィジュアル・アート）。主な展覧会に「Diffusion」（Reassemblage Collective、トロント、2024）など。キュレーション・プラットフォーム「Indeks」を運営。

## 第2期：2025年7月5日（土）～8月10日（日）



8. 《The name of the flower you didn't remember after all.》

紙にプリント  
2024

## AKONITO

### 二都市間交流事業プログラム<ブリュッセル>

（2024年1月～4月、9月～12月滞在）

AKONITO は、時間や霊といった、広く共有された概念を分解、組み換え、再構成することで、人類のもつ深層の共通性を見出し、作品化を試みています。女性たちのみで集団生活を行っていた歴史的建物群「ベギンホフ」について調査を行い、伝統的なカトリックとも異なり彼女たち自身の信仰を大切にしていた「ベギン」たちの、創造的かつ匿名性の高い手仕事や、時に魔女として迫害を受けた歴史を辿りました。そこから見える現代のフェミニズム運動との共通点や、作家自身とのオーバーラップに光を当てます。

【プロフィール】主な展覧会に「Green guys with red breath.」（インストールの途中だビル、東京、2023）、「Do my feet still touch the ground?」（東京芸術大学 立体工房と Yuga gallery、2022）など。



9. WIELS でのオープンスタジオの様子

## 綾野文麿 | AYANO Fumimaro

### 二都市間交流事業プログラム<ブリュッセル>

（2024年9月～12月滞在）

綾野の作品は日常的なイメージや物体に焦点を当て、特定の言葉やフレーズの意味・語源を言葉遊び的に駆使しながら、文化的な習慣、伝統、信念の表現に疑問を投げかけています。滞在中には、ドイツ語で「紙皿」、英語では「物語るもの」を意味する《Teller》と名付けた作品／プロジェクトに取り組みました。ベルギーの国民食であるフリット（フライドポテト）の紙皿というイメージを通して、移民を含めた現地の人々の個人的・集団的な経験や記憶を、作者個人というフィルターを通して作り直し「翻訳された経験」を展開します。

【プロフィール】1992年福岡県生まれ。東京都を拠点に活動。2023年東京芸術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。主な展覧会に「Same as the street」（LAVENDER OPENER CHAIR、東京、2024）など。



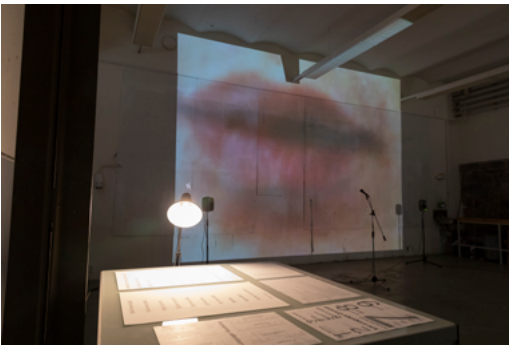
10.《双子（青）》《双子（赤）》  
インクジェットプリント  
2019

## 金 サジ | KIM Sajik

二都市間交流事業プログラム<ソウル>  
(2024年9月～11月滞在)

家族から引き継いできたコリアン・ディアスポラとしての心の傷や、言語の壁を自覚しながら、金は作品表現を通じアイデンティティ・トラウマからの解放、人間の回復力の可能性を探究しています。韓国の日常生活に根強く浸透しているシャーマンや巫俗芸能の儀式を取材しながら、柔軟に他文化を吸収し根付く占いや儀礼が、どのように人々の心を解いているのかを調査しました。言葉がもつ所属を縛る呪術的な力や、舞踊がもつ言葉を介さないコミュニケーションに注目をしながら、傷を負った魂とその回復について考察します。

【プロフィール】京都府を拠点に写真家として活動。活動の一環として舞踊家、金一志に師事し、韓国舞踊を学ぶ。主な展覧会に「Study: 大阪関西国際芸術祭2025」(船場エクセルビル)など。



11.《Koe Language Songs Project》  
スピーカー(4ch)、マイク、映像、紙  
2024  
Photo: Elis Hannikainen

## 小宮知久 | KOMIYA Chiku

二都市間交流事業プログラム<ヘルシンキ>  
(2024年8月～11月滞在)

小宮は音楽のさまざまな規範を問い直しながら、現在のメディア環境と身体における新しい音楽形式を領域横断的に模索しています。日本語とフィンランド語には類似する単語(発音)や似ている文法構造が多い点に着目し、両国の合成言語「Koe語」を作成しました。フィンランド民謡についての調査や現地アーティストとの協働を通じて、自動生成されるメロディとともに、この作成した言語による架空の民謡を取り扱ったメディアインスタレーション/パフォーマンスを發展させ、従来の作詞作曲の方法に縛られないプロジェクトを展開させます。

【プロフィール】1993年生まれ。東京都を拠点に活動。2018年東京藝術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。主な活動として、「声の亡霊」(monade contemporary | 単子現代、京都、2024)など。



12.《Celestial-cranial Instrument: Sutural Sundial & Sutural Moondial》  
真鍮、ガラス製レンズ  
2022-2023  
Courtesy of TAG Art Museum、青島

## 陳哲(チェン・ズ) | CHEN Zhe

海外クリエイター招聘プログラム(2025年1月～3月滞在)

チェン・ズは近年の作品制作にあたり、人類(“the below”)が、天上の存在(“the above”)と交流を図る際の様々な方法について探究しています。多くのスピリチュアルな方法の中でも、お香を焚くことは神聖な存在への捧げる行為というだけでなく、アロマセラピーや瞑想、宗教儀式の一環としても行われます。レジデンス滞在中には、仏教と神道における焚香の歴史の変遷や、非常に複雑な熟練の技について、また人体を模したパーツを奉納する伝統について調査しました。本展ではそうして得た知見を、彫刻的なインスタレーション作品として発表する予定です。

【プロフィール】1989年北京生まれ。北京を拠点に活動。2011年ArtCenter College of Design卒業(写真)。主な展覧会に「Towards Evenings, My Heart」(Galleri Image、オーフス、デンマーク、2022)など。



13.《蕃魂碑》  
紙、クレヨン、墨、LED  
2024

## 露木春那 | TSUYUKI Haruna

二都市間交流事業プログラム<台北>  
(2024年10月～12月滞在)

漢字や文字が持つ歴史文化に深い関心をもつ露木は、自身の祖母の体験から着想し、沖縄から台湾への疎開というテーマで文献調査や聞き取りを行いました。残された資料から読み取れる歴史だけでなく、「今ここにいる人とつながることの重要性」を強く感じた結果、自身に深く刺さったエピソードや理解に苦しんだ経験を作品に込めています。本展では、露木の特徴である文字の収集・模写の反復といった技法を使い、疎開した人々やそれを受け入れた（あるいは受け入れきれなかった）人々が残した文字を通じて、文字と人間の心が共鳴する空間を表現します。

【プロフィール】1991年静岡県生まれ。静岡県を拠点に活動。中国美術学院書法系卒業。2018年東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。主な展覧会に「目の見えない白鳥さんアートを見に（浜松に）いく」（浜松市鴨江アートセンター、2023）など。



14.《Where Lies My Carpet is Thy Home》 展示風景  
2024  
© Lance Gerber

## クリストファー＝ジョシュア・ベントン

Christopher Joshua BENTON

海外クリエイター招聘プログラム (2025年1月～3月滞在)

ベントンは11年間生活しているアラブ首長国連邦 (UAE) での経験を出発点にしながら、アイデンティティや労働、故郷といったテーマに取り組んでいます。ストーリー性のある彼の作品は彫刻や映像として具現化され、いずれもコミュニティの協働と労働者階級の連帯への信念から導き出された緻密な実践により生み出されています。本展では、中東が拠点のアフリカ系アメリカ人という自身のアイデンティティに通じる、ペルシャ湾と日本とアフリカをつなぐ海洋真珠取引の歴史に関しての研究成果を反映した作品制作を構想しています。

【プロフィール】1988年アメリカ生まれ。UAEとアメリカを拠点に活動。2023年マサチューセッツ工科大学 (MIT) 理学修士課程修了（芸術・文化・テクノロジー）。主な展覧会に「パブリック・アート・アブダビ・ピエンナーレ Where Lies My Carpet is Thy Home」(2024) など。

「リング・フランカ」  
広報用画像申込書

Email : [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  
 11  12  13  14  ウェブバナー (4月中旬頃納品)

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/19>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別  TV  ラジオ  新聞  フリーペーパー  ネット媒体  その他 ( )

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 ( 月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Webサイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 (2025年4月1日より03-5245-1140) E-mail: [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)